



3



1



4



2

特集 野生鳥獣との共生を目指して

昭和村は利根郡の最南端にあって赤城山北西麓に位置しています。総面積64.14kmのうち、村民が暮らす住宅地や企業・工場などがおよそ1割、残りを畑や山林が占め豊かな自然が広がっています。

その一方、昨今では、野生鳥獣の増加により農作物被害や人里で見かける機会が増えています。

野生鳥獣から大切な農作物、村民の生活を守るため、私たちにできることは何があるでしょうか。

1 換毛期により抜け落ちたニホンジカの体毛 2 獣道沿いにくくりわなをしかける 3 野生動物の潜み場となる藪の草刈り 4 キジの放鳥

やさい王国のピンチ

野生鳥獣との向き合い方

「やさい王国」と言われる昭和村が今、存続の危機に陥っていることを知っていますか。野生鳥獣が畑を闊歩し、やさい王国が「どうぶつ王国」になんて日がくるのでは、と利根沼田^{りょうだ}猟友会昭和支部会長の須藤貴一さん（赤谷）は警鐘を鳴らします。

増え続ける鳥獣

「やさい王国昭和村」。村民なら誰もが知っている昭和村を代表するキャッチフレーズですが、この標語を使えなくなる日がくるかもしれません。

今もなお増え続け、田畑を荒らす野生鳥獣たち。このまま対処が遅れば、やさい王国も存続の危機です。

野生鳥獣は年々増加しています。猟友会員の人たちに依頼し捕獲を行っています。生まれくる頭数の方が捕獲数を上回りつつあります。現在の対応だけでは、現状維持が精いっぱい状況です。

また、猟友会員も迫る高齢化には勝てず、このままでは野生鳥獣たちが畑に溢れ返る日が近いかもしれません。

なぜ

そもそもなぜ、鳥獣は人間の生活域に出没するのでしょうか。

原因を一つに特定することは困難ですが、昔と比べて私たち人間の生活様式や森林とのかわり方が変わったことは間違いないありません。

薪や炭^{すす}を作るために森林を活用していた昭和40年代までは、誰もが山に入り、手入れを行っていました。どちらかというと、人間が鳥獣の生活域に立ち入っていたのかもしれません。

しかし現在では、人が山に入らなくなった分、鳥獣の生活域が拡大して頭数も増加し、鳥獣が餌や縄張りを求めて農地や人里にも出没するようになっています。

鳥獣は学習する

「鳥獣は学習し、おいしい餌が食べられる場所を覚えて、何度も姿を現すのです」須藤さんは鳥獣の特徴をそう話します。鳥獣は人間が作ったおいしい作物などを一度食べてしまうと、山にある餌よりも人が作ったものを求めて私たちの生活域に頻繁に出没してくるようになります。

その反面、警戒心が強いので、何度も追い払われたり、猟銃で仲間が捕獲されたり、電気柵で感電したりすると、「怖い場所」「行っちゃいけない場所」として認識し、その場所にはもう来なくなることもあります。

利根沼田猟友会

昭和支部 会長

須藤 貴一さん(72)





有害鳥獣の捕獲に使用される箱わな



有害鳥獣対策に設置されたフェンス



食害にあったとうもろこし

追われる対応 行われる対策

昭和村で捕獲される有害鳥獣の数は年々増加しています。令和5年度はニホンジカ74頭、イノシシ6頭が捕獲されました。令和6年度では、ニホンジカ104頭、イノシシ19頭が捕らえられています。年度途中ですが、すでに昨年度の実績を超えています。おいしい餌を食べ、増え続ける有害鳥獣。猟友会員の努力により捕獲数は増加しています。

▼人里に現れた雌のニホンジカ



そのおかげもあり、現在農作物への被害は増えることなく、村民の生活が支えられています。捕獲による鳥獣害対策以外にも、国の助成によって鳥獣の侵入防止用金属フェンスを設置しています。また、村の補助を活用して鳥獣被害を防ぐ電気柵の設置などの対策を行うことができます。

鳥獣害対策はすぐに効果の出るものが少なく、継続して対策を続けていく必要があります。鳥獣害を減らしていくためには、村民の皆さんと行政が協働による、今後の対策が重要な鍵を握っています。とはいえ、まずは猟友会による対応がなければ始まりません。



獣害防止柵等設置事業

電気柵の設置を補助

▶問合せ・申請先 産業課農政係 ☎25-3436

有害鳥獣による農作物の被害を防ぐための電気柵購入費用の一部を補助します。個人で設置する場合と共同で設置する場合で補助金額も変わります。

電気柵などの購入費の1/2以内

補助の限度額	1世帯での設置	7万円
	2世帯以上での設置	14万円



利根沼田猟友会昭和三支部の皆さん

猟友会とは

猟友会とは、狩猟事故の防止、マナー向上をはじめ、狩猟の担い手の育成、野生鳥獣の保護管理などの活動を行う団体です。

利根沼田猟友会昭和三支部は、狩猟や射撃などを楽しむ人たちを中心に発足しました。現在の会員数は14人。狩猟免許を持つ会員たちが、射撃の練習や「わな」の設置方法の講習を受けるなど、技術を磨き、猟期には法律に基づき活動をしています。

猟友会のありがた

近年、猟友会の活動内容や期待される役割が変化しつつあります。野生鳥獣が増えて、農作物への被害が危惧されるようになった結果、猟を楽しむのではなく、行政や農家の要請に基づいて有害鳥獣を捕獲することが多くなりました。

鳥獣被害を減らしていくためには、増えすぎた個体数を適正な数にまで捕獲により減らしていく必要があります。

村民を守る 猟友会



趣味で始めた狩猟

『18歳で銃の免許をとって猟友会に入ってからもう50年か』と当時を懐かしみながら須藤さんは話してくれます。

狩猟を始めたきっかけを伺うと、夏は農業を行いながら冬の食糧調達や趣味としてキジやヤマドリを狩猟し始めたとのこと。昔は若い人もたくさんいて30年前には80人ほどが在籍しており、大人数でシカを獲りに片品村方面に遠征に出向いたこともあったといいます。『今は総勢14名。少ない人数ながらも長年一緒にやってきた仲間とともに仲良く活動している』と猟友会での活動を振り返ります。

そんな、猟友会活動も現在では有害鳥獣の対応が多くを占め、趣味で始めた狩猟も今では仕事の様だと語ります。それでも村民のためとの思いで須藤さんは日々活動を続けています。

しかし、猟友会も高齢化の波には勝てません。70歳を超える人が半数以上を占め、あと何年かすれば猟友会活動を続けていくことが難しくなる時が来るかもしれません。もしそうなったとき、村内に野生鳥獣がはびこる、そんな将来を憂い協力してくれる仲間を募集しています。



利根沼田猟友会 昭和支部
須藤 貴一さん(農業・72)



3



2



1



5



6



4

1 捕獲した有害鳥獣に止めさしを行う 2 鳥獣を追い込む勢子による巻き狩り猟の打合せ 3 一年に2回行われる射撃訓練 4 猟期に入りキジ猟に向かう 5 猟を行う前に入念な打合せ 6 獲物が来るのをじっと待つ待ち子

Interview



利根沼田猟友会 昭和支部
大竹 国光さん(農業・28)

猟友会を支える若手に聞きました

◎猟友会に入ったきっかけは？

もともとは釣りが趣味でよく山に入っていました。アウトドア好きが高じて狩猟に興味をもったことがきっかけです。

身近な人でやっている人はいなく、直接銃砲店に出向き、始めるならどうしたらいいか聞きました。そうしたら狩猟を始めるなら、色々教えてもらえるし、頼りにもなるから猟友会に入った方がいいと紹介をされ加入しました。

◎魅力を感じる場所は？

普段踏み入れないような深い^{やぶ}藪や林に入っていくのが、新しいことをしている気持ちになり魅力を感じます。また、自分が獲った獲物をさばいて、食べることもできて満足感が大きいです。

◎主に行っている活動

主に猟銃を使用して狩猟期間に山に入り、小型や大型の狩猟を行っています。仕事もあるので、有害鳥獣の対応には参加が難しい時もありますが、可能な限り参加するようにしています。

◎狩猟を始めてから印象に残っていることは？

初めて獲物を獲り、さばいた時に感じた温かさです。冷たい魚とは違って、哺乳類特有の体温がとても印象深く残っています。

◎最後に一言 少しでも興味のある方は一緒に活動しませんか？

利根沼田猟友会昭和支部は 新規会員を募集しています

- 畑が荒らされて困っている
- ジビエに興味がある
- 革製品を作ってみたい
- 剥製を楽しみたい
- 狩猟に興味がある など

少しでも興味があるかたはぜひご連絡ください

狩猟免許取得のためには、狩猟について必要な適正・技能および知識に関する試験に合格することが必要です。猟友会による事前講習会などにより必要な知識を身に着けることができます。また、経験豊富な会員から手ほどきを受けることもできます。免許取得を検討しているかたはぜひご相談ください。

▶問合せ 産業課産業振興係 ☎25-3436

利根沼田猟友会昭和支部 ☎090-3064-4310(須藤貴一さん携帯)

これからを考える

狩猟は今や、地域の住民や自然環境などを守る
「社会貢献活動」でもあると言えます。

しかし、動物たちも生きるために一生懸命。

鳥獣被害を抑えながらも

野生鳥獣と人間がこれからも共存していける

そのような環境作りを考えていく必要があります。